東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

Introduction to School Library, Fusion of Reading and Writing : Aiming to Improve Critical Writing Skills

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2022-03-15
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 近藤,由紀彦, 前田,稔
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173554

東京学芸大学紀要　総合教育科学系　73：69－83, 2022

学校図書館入門，読むことと書くことの融合

― Critical Writing スキルの向上を目指して ―

近　藤　由紀彦*1・前　田　　稔*2

生涯教育分野

（2021年9月13日受理）

1．はじめに

筆者は, 東京の私立小学校に32年間, 横浜の私立小学校に7年間勤務した。学級担任, 主事, 部長を務める傍ら, 図書館指導や図書館経営にも携わってきた。2020（令和2）年度秋学期に東京学芸大学で「学校図書館入門」の講義を担当することになり，三つの目標を立てた。第一は，学生とのやり取りを軸にして Critical Thinking の向上をはかることである。何故かというと日本の大学生は高校卒業までの学校教育において矢継ぎ早に質問されることを経験していない。質問されないことは考えずに済むことを意味する。だから，自ら質問をするスキルも身につかないのだ。一方，諸外国の授業は沢山の書物を読み，内容を分析しながら質疑応答をくり返すスタイルである。更にそれは学校の教室に止まらない。家庭でも友人の間でも日常的に行われる。海外の映画やテレビドラマを見れば一目瞭然である。以上の問題意識から文学作品や詩や絵本などをめぐって学生諸君と問答を繰り返したいと構想した。しかし，それは新型コロナの影響で出来得なかった。第二は，学校図書館の現況を知って児童生徒を読書に向かわせたとしても読んで終わりということでは目標は半分も達成できない。つまり, 書くことと連動していない限り, Critical Readingに至らないということである。読むことで情報がインプットされ, 物語の構造や内容の分析ができても, アウトプット（作文）をしなければ, 本当の読みとは言えず, いくら朝読書や読書の時間を設けても有効な時間の使い方とは言い難いからだ。最終的にはCritical Writingが出来なければ目標を達成したことにはならない。第三に分析的な読みをするスキルが身につくと様々な文化活動に応用できるという利点がある。読書をすることで身につけたスキルは，映画やテレビといった映像表現を分析的に見ること，絵画や演劇を分析的に観ること，スポーツを分析的に捉え多角的な見方を可能にすること等々，ものの見方・考え方の土台となるのである。筆者は社会に出てから役立つようなスキルを身につけた上で卒業してほしいと願っている。ただ本来，このようなスキルは中学校や高等学校の授業の中で身につけるべきものである。しかし，日本の教育内容はそうなっていない。特に国語科のカリキュラムが作文のスキルアップに割く時間を設けていないので大学生になってから書くことで苦労する学生が多いのも事実である。教職に就く人たちは，企業に勤務する人と比べ，上司に報告書やレポートの添削を受ける機会が極めて少ない状況にあり，自らも記述に関する指導を受けていない教員が児童生徒の作文指導に当たるという問題も生じている。

2．記述スキルをアップするための指導

そもそも記述の基本になるのは，パラグラフライティングである。これは特にアメリカの学校で用いられる作文の書き方で上のパンと下のパンに中の具（レタスであり，トマトであり，肉等）が挟み込まれる仕組みである。アメリカは横書きの文章なのでハンバーガーが適当なのであるが，日本の縦書きの文章にとっては不都

＊1　東京学芸大学 非常勤講師
＊2　東京学芸大学 教育学講座 生涯教育学分野（184-8501　東京都小金井市貫井北町4-1-1）

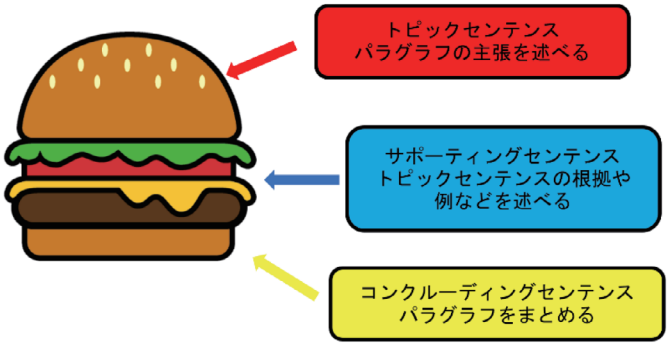

図１　ハンバーガーライティングの図＝アメリカの教科書に掲載されている図である。日本の原稿用紙は縦書きの為、私が勤務していた私立小学校ではＢＬＴサンドイッチ作文という名称で指導している。

合である。私の勤務校では，ＢＬＴサンドイッチ作文と説明していた。Ｂ＝ベーコン，Ｌ＝レタス，Ｔ＝トマトで白いパンとライ麦パンで挟まれているサンドイッチを想起して命名したものである。

ハンバーガーの上にあるパンの部分にあたる文章をトピックセンテンスと呼び，冒頭で論点を明確にした中心になる主張をおこなう。真ん中の具に当たる部分は，サポーティングセンテンスと呼ばれ，ハンバーガーでいえばレタスやトマトや肉にあたる。一番下のパンに相当する文章は，コンクルーディングセンテンスと呼ばれ，書き手の主張を自分の言葉で書き換えた文章を指すのである（図１を参照）。

〔トピックセンテンス〕
・主語と述語はなるべく近くに置く。僕・私は使わない。
・書きたい項目をトピックセンテンスに埋め込む。
〔サポーティングセンテンス〕
・つなぎの言葉を使う。
　一つ目　二つ目　三つ目／まず　次に　最後に
・例や説明を入れて，理由を詳しく書く。
〔コンクルーディングセンテンス〕
・トピックセンテンスと同じ表現にならないように工夫する。ただし，論点を変えてはならない。
・主語を入れる。ただし，僕・私は使わない。
〔注意〕改行は行わない。（※）

以上のパラグラフライティングの書き方を使って文を組み立てていくことで小論文やレポートを記述することが容易になるのである。
※改行を行わないことについて，
・段落のない文章は読みにくいが，段落ばかりの文章も読みにくい。
・段落とはハンバーガー全体(縦書きの場合はＢＬＴサンドイッチ)である。であるから，途中での改行は不要である。
・一つの段落には一つのトピックを書くのが原則である。トピックとはまとまった内容のことを指す。ハンバーガーはパンの間に具が挟まっている。トピックに合わせて中に挟む具（文章）も厳選しなければならない。
・トピックセンテンスで相手に見通しを持たせることができる。読み手への配慮を考えるうえで重要な文章である。何故ならその段落で述べたいことを表した一文で述べた文章のことであるからだ。何が書かれているか見通しの悪い文章を読むと，読み手は読む気をなくしてしまう。段落によって文章を区切り，トピックセンテンスを置くだけで読みやすくなるのである。トピックセンテンスを読めば，読み手に取って読むべきか読まざるべきかが判ってしまう。

サポーティングセンテンスは，トピックセンテンスを支える具体例を挙げ，理由・根拠を述べることが重要である。

コンクルーディングセンテンスは段落の最後にくる文章で，以下の二つの機能を持っている。
⑴段落の内容をまとめる機能
⑵次の段落につなげる機能
※必ず⑴と⑵がなければならない訳ではない。どちらか一方の機能があれば十分である。

というようなことを学生に説明した上で，課題に取り組ませるように心がけた。その結果，記述力は目覚ましく向上した。(注1)

３．課題に対する学生の対応

2020年度秋学期の授業では，第1回と第2回において，学校図書館の時代的な背景や学習指導要領との関係について説明をした。それを踏まえた上で，第3回の課題は，「あなたが考える魅力的な図書館とはどのようなものでしょう。」という論題を設定した。学校図書館を想定しても公共図書館を想定しても構わないという前提であった。公共図書館であれば，武蔵野プレイスや都立多摩図書館などを想定するであろうし，文部科学省のウェブサイトにある，これからの図書館像や実践事例集も参考になること，そして，架空のバーチャル図書館も面白いであろうということも補足として添えた。不慣れなことと記述そのものを遠ざける学生がいてはいけないという配慮から字数は300字から400字と短いものにした。

【公共図書館について書いた学生の記述】
●私が考える魅力的な図書館とは，本の紹介が沢山並んでいる空間だと考えます。私は本があまり好きではありません。その第一の理由として，分厚い本に抵抗があるからです。長い文章を読まなきゃいけないという宿題を出された気持ちになります。そこで，あらすじやこのような気持ちになれるといったような紹介が書いてあると，読んでみたいという気持ちになり，誰かにやらされていると感じるものではなくなります。私は最近になってもっと本を読んでおけばよかったと感じることが多いです。子どもたちはもちろんのこと，本をもっと読む風習が広まるといいなと思います。
●私が考える魅力的な公共図書館とは，地域の人との交流が活発な明るい雰囲気のある図書館である。なぜなら，公共図書館にはただ本を借りて読むだけでなく，その場だからこそ生まれる本や人との関わりがあって然るべきと考えるからだ。このために，次のような工夫が考えられる。１つ目は読み聞かせコーナーの設置である。既に多くの図書館で設置されているが，限られた曜日や時間のみの実施になっている。職員の方だけでなく，図書館を訪れた人が読み聞かせを行うことで，幼い子どもたちが本に触れる機会が増えたり，親同士の交流が深まったりすると考える。２つ目はリテラチャーサークルやお薦めの本のポップ作りなどのイベントを盛んに行うことである。これにより，自分一人では気づかなかった本の内容や表現の魅力を発見できると考える。以上のような工夫によって老若男女問わず多くの人々と本を通して交流できる公共図書館が魅力的であると私は考える。
●私が考える魅力的な図書館とは，蔵書の多さ，設備の充実度，居心地の良さの三拍子がそろうことで利用者に愛される図書館です。第１に蔵書が多いということはお目当ての本がある可能性が高いというだけではなく，選択肢が広がることで新たな本との出会いにつながるという点でも魅力があります。第２に設備が充実しているということは，検索機を上手く使えないというお年寄りの方であったり，本を手に取ることができないという小さなお子さんでも図書館の利用が容易になり，様々な年代の方に利用してもらえるからです。第３に居心地が良い図書館というのは，地域の人々にとって心地よい一つの居場所であり，地域の人々の学習に寄り添いながら，心の豊かさを育むことができる環境であると思うからです。以上のように，蔵書の多さ，設備の充実度，居心地の良さの三拍子がそろうことで利用者に愛される図書館が私が考える魅力的な図書館です。

【学校図書館について書いた学生の記述】
●私が考える魅力的な学校図書館は，種々のネットワークの結節点たりうる空間のことである。第1に，学校内の教員とのネットワークである。教員と学習内容を共有することで，学習内容に関連する書籍を充実させる

ことにつながると考えるからである。第2に，周辺の公立図書館などとのネットワークである。たとえば，子どもが読みたい本が学校図書館にない場合，周囲の図書館から取り寄せることができれば，「読みたいのに本がなくて読めない」という問題を解決できると考えるからである。第3に，AIなど，インターネットによるネットワークである。インターネットを活用すれば，学習支援に資するデータベース（写真，新聞記事など）を使用できる。また，AIを活用すれば，子どもひとりひとりのニーズに合わせた本を表示できると考えるからである。以上のように，魅力的な学校図書館は，人，周囲の施設，インターネットといったネットワークが集約された空間である。

●私が考える魅力的な学校図書館とは，教科学習に関連した文献が充実した空間のことです。今後の学校教育において読書活動と教科学習を結びつけることが進められる以上，諸科学を扱った書物が偏りなく置かれていることは必須と考えるからです。生徒たちが教科書の枠を越えて学問について知ってみたいという知的好奇心に応えられるよう，図書は充実しているべきだと思います。中高生でも読みやすい，新書（とくに岩波ジュニア新書やちくまプリマー新書）などが多くあると挫折することなく，積極的な読書学習が期待できるでしょう。そのためには教師が授業の中で，学習内容に関連した図書を紹介するなど，読書活動に積極的に関わることが重要だと思います。また，生徒にとって身近な大人である教師の読書活動を示すことで，生徒たちが大学などにおける勉学の一環に触れるなど，進路指導の役割も期待できるかと思います。

●私が考える魅力的な学校図書館とは，実物の本とデジタルネットワーク，専門の司書教諭の三つがそろっているものです。実物の本は生徒が読みたい本をいつでも好きな時に読めるように置いておく必要があります。スマホが普及し，簡単に多くの情報が手に入る現代社会であるからこそ，実物の本に触れる機会を学校図書館が提供することが必要です。デジタルネットワークは授業にもあったように，現在の学校図書館は生徒が授業の内容の理解等で使用するには資料が足りていません。この問題を解決するために，ネットワークでの資料検索環境を整えておくことが重要です。専門の司書教諭は前述した二つの要素を補助するような役割で必要だと考えます。本を選ぶためにだれかの意見が欲しい時や，ネットワークを用いた資料検索で調べ方に困ったときなどの手助けになる必要があると考えます。

４．物語の構造を捉えて分析する

洋の東西を問わず，文学作品や演劇などは図２のような物語の構造で創られている。昔話は特に判りやすい構造で成り立っている。「桃太郎」や「三びきのこぶた」は正に典型的な形をしている。山場の盛り上がりは大抵三度くり返される。テレビドラマやミュージカルも同じ作られ方をしている。物語を読む時，この構造が頭の中にフレームとして描かれることが出来れば内容の理解がし易い。学生諸君は高校段階までにそのような訓練を受けてきていない。起・承・転・結という漢文の形式やはじめ・なか・おわりという漠然とした形で物語を読んでいる場合がほとんどである。本に付箋を貼ったり，読後に山型の図に書き込みをしてみたりすると話が視覚化でき，展開が理解しやすいので，そのような説明を行った。ただし，横書きの文章では山型の頂点が右にずれるので注意が必要である。講義ではノルウェーの昔話として有名な「三びきのやぎのがらがらどん」を素材に物語の構造を考えた。ほかに「三まいのおふだ」やトルストイの「三びきのくま」なども物語の構造

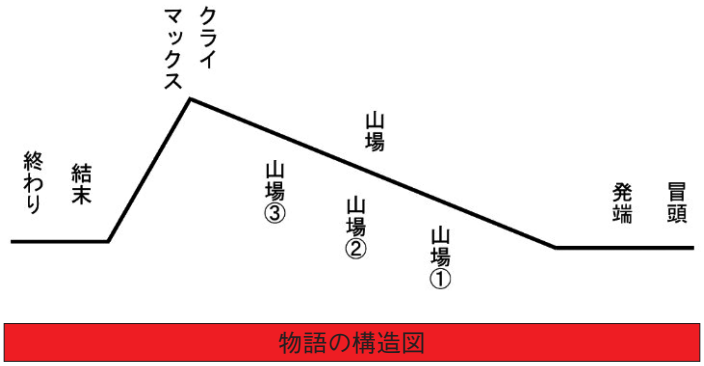

図２　物語の構造図＝洋の東西を問わず多くの物語はこの形式で組み立てられている。

を捉える上で適した作品である（図２を参照）。

・冒頭＝状況設定（いつ，どこであった話かという説明がなされる。）人物，主人公が登場し，登場人物，主人公の性格や様子が描写される。
・発端＝状況が複雑化する。主人公に問題が発生し，敵が登場する。敵は鬼とは限らない。事件・病気・災害・悩みなど主人公に降りかかる様々な問題である。
・山場①～③＝状況の展開，主人公が問題解決のために行動を起こす。話が盛り上がっていくところである。
　１．最初に起きること
　２．次に起きること
　３．最後に起きること
　昔話の場合，3回ないし4回くり返されることが多い。長編の場合はくり返しの数が増えていく。山場に緊迫感を与えながらクライマックスへと導いていく。
・クライマックス＝敵と主人公の強弱が入れ替わり，主人公が敵を倒す一番盛り上がるところである。
・結末＝クライマックスに結び付いた事件が決着する。
・終わり＝物語のその後の展開，教訓，問いが記される。ただ，この部分は省略されることも多い。

【新美南吉「飴だま」を例に】
　以前小学5年生の教材（光村図書）として扱われていた短い作品である。取り上げた理由は，見事に物語の構造に当てはめることができるからである。そして，長文であると全体像が捉えにくいと考えたからである。この作品では，母親の緊張の高まりが子どもの発言とリンクして山場を構成している。
　山型の図の下に状況と母親の心情を二層にして図３として示した。何故かというと，話を時系列に追っただけでは母親の心情を浮かび上がらせることができないからだ。
　「飴ちょうだい」「飴ちょうだい」とせがむ姉妹と侍の間に挟まれて緊張が高まっていく母親の心情を捉えることがポイントである。心情曲線を描いてみれば，どんどん上昇していく局面になっている。母親の心情が緊張を高めていく様子に着目して，自分で副題をつけた学生もいた。義務感➡戸惑い➡不安➡恐怖という移り変

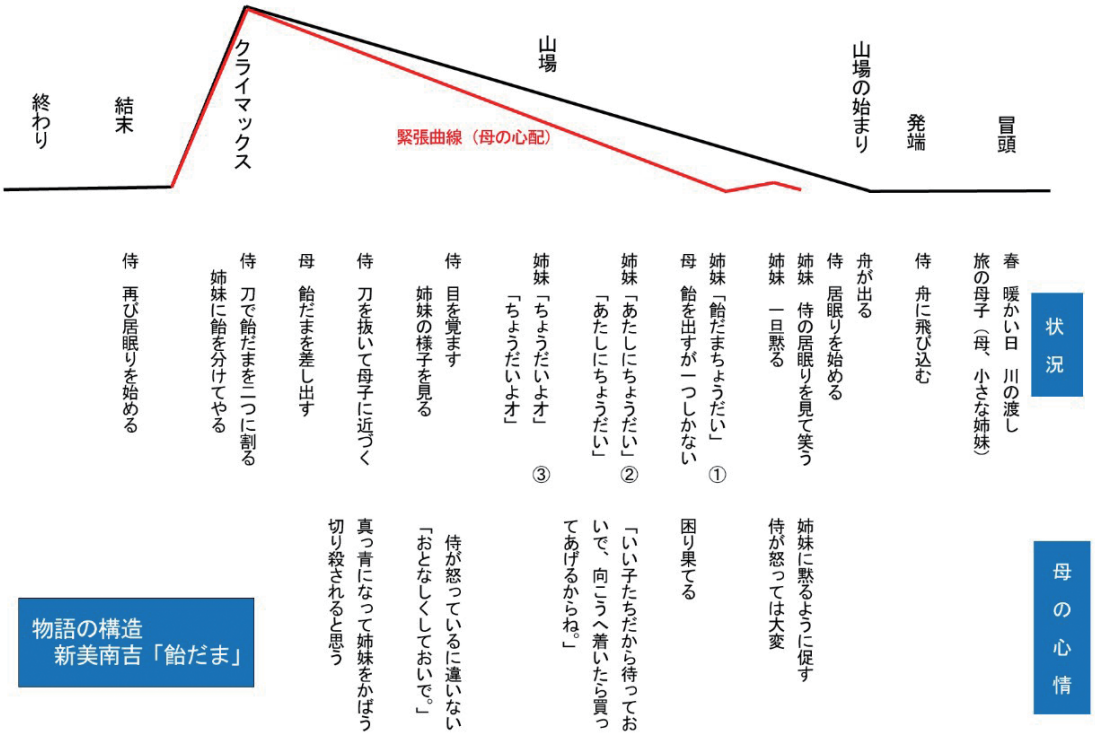

図３　光村図書「国語」５年生に掲載されていた新美南吉の「飴だま」を物語の構造に当てはめたものである。図は筆者が作成した。

わりである。

対面授業であれば，クライマックスの捉え方についても議論を交わしたかった。例えば，侍が刀を出した場面とする意見，飴だまを割った瞬間とする意見，飴だまを姉妹に渡したところという意見等々，様々なものが出されると予想できるからである。今回，それが出来なかったことが何とも残念であった（図３を参照）。

〔例１〕

◎居眠りをしている侍を見て姉妹が笑った時

➡焦り＝お侍というくらいの高い立場の人に対しての笑いは嘲笑と捉えられ切り殺されてしまう恐れがあることに対しての焦り

◎飴だまが一つしかなかった時

➡困惑＝1つしかない飴を2人にやりたいけれど，どうにもすることができないことに対しての困惑

◎侍が眼をあけて姉妹の様子を見ていた時

➡驚きと焦り＝眠っていたお侍が目を覚ましたことへの驚きと娘たちの声でお侍の居眠りを邪魔してしまったのではないかという焦り

◎侍が刀を抜いて母子たちに近づいてきた時

➡焦りや恐怖＝子供たちをお侍から守らなければならないという責任感。子供たちの声でお侍を起こしてしまい何か癪に触れてしまい自分たちを切ろうとしているのではないかという焦りや恐怖。〔子供たちに怪我を負わせてはいけない，守らなければいけないといった大人としての責任感〕

〔例２〕

◎居眠りをしている侍を見て姉妹が笑った時

➡侍が怒っては大変だから，子どもたちを黙らせなければという義務感

◎飴だまが一つしかなかった時

➡子どもは二人いるのに飴だまは一つしかないことへの戸惑い

◎侍が眼をあけて姉妹の様子を見ていた時

➡居眠りの邪魔を侍を怒らせたに違いないという不安

◎侍が刀を抜いて母子たちに近づいてきた時

➡侍が居眠りを邪魔されたことに怒って子どもたちを切り殺してしまうのではないかという恐怖

【アーノルド・ローベル「おてがみ」を例に】

光村図書「国語」小学校２年生に掲載されている教材である。この作品も物語の構造に当てはまる。がまくんとかえるくんの会話によって話がクライマックスへと向かう。一方，がまくんに手紙を届ける役割を請け負ったかたつむりの存在に着目して課題を設定した（図４を参照）。

【課題】かえるは，毎日手紙を待つがまがえるのさびしそうな様子を見て，一旦家へ帰ります。そして，手紙を書き上げると，それをかたつむりに託します。さて，この物語の中でかたつむりはどのような役割を果たしているでしょう。200字程度で書きましょう。

●私は，かたつむりは未来に希望や夢をもち続けることを促す役割を担っていると考えます。物語の冒頭で，がまくんは待っても手紙が届かないことを嘆いていましたが，最後の場面でかたつむりを待っているふたりはしあわせな様子でした。動きのおそいかたつむりが運ぶ手紙がいつ届くのかは分かりませんが，届く日は必ずやってきます。未来を悲観するのではなく，嬉しい知らせがきっと届くと信じ，未来を前向きに捉えることの大切さをかたつむりは表しています。

●かたつむりがゆっくり手紙を運ぶことで，山場が後ろにずれ込み物語が魅力的になっています。私だったら物語の山場をかえるくんががまくんの悩みを解決しようと考えるところに持ってくると思います。ですが本作では用意した作戦が実行されているところに焦点が当たっています。かえるくんがどういう気持ちで行動したかを書き込まないことで，ひとのために行動できることの尊さが教訓臭くなく描かれており，実行が代わりに描かれることで，読者に想像の余地と，サプライズ前のようなワクワク感をもたらしてくれます。

●かたつむりは手紙を待つ時間の感じ方の違いを表す役割がある。がまくんにとって届かない手紙を待つ「ふ

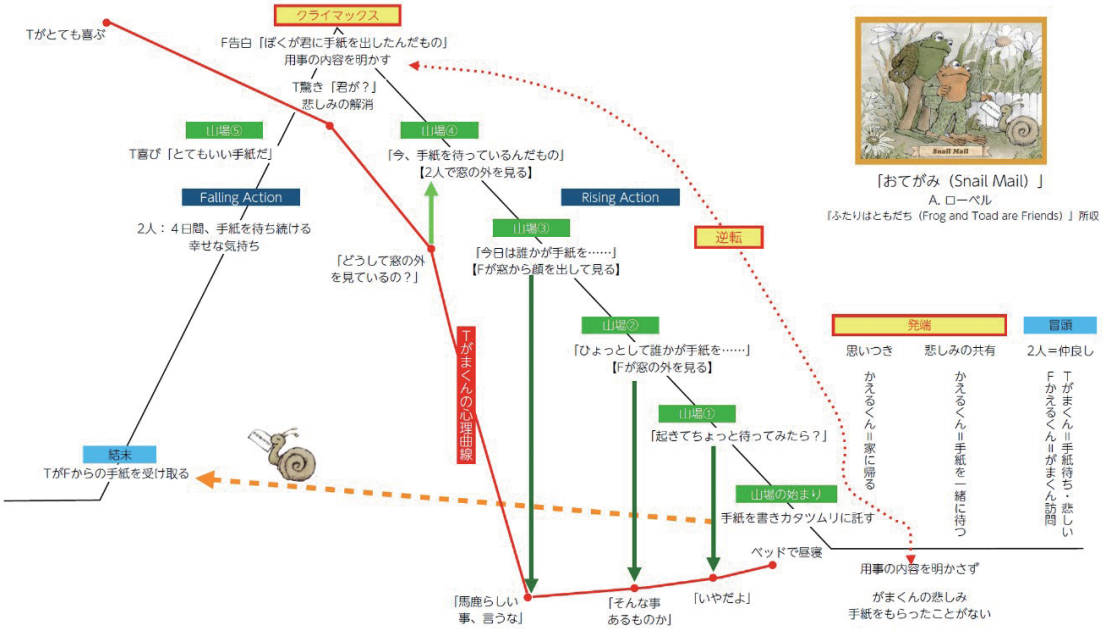

図４　光村図書「こくご」２年生に掲載されているアーノルド・ローベルの「おてがみ」を物語の構造にあてはめたもの。図は横浜初等部の倉田知幸教諭が作成した。

しあわせ」な時間は作品中の多くの言葉や表現，かえるくんとの会話によって示されていく。一方でかえるくんに手紙が届くこと，その内容を明かされると，途端に物語は終わりを迎える。かたつむりの歩みなのに手紙が届くまでの「四日間」が少ない言葉によって語られる。それほど「しあわせな」時間は時が経つのが早い，ということがわかる。

●かたつむりは，手紙が届くことを知ったうえで待つことを二人にもたらした点で重要な役割を果たしている。「すぐやるぜ」といったかたつむりをかえるくんはまだかまだかと待ち，じれったさから自らが手紙を書いたとこぼす。結果，確実に手紙が届くとわかった上で待つことになり，一気に幸福になるからだ。また，かたつむりのゆっくりさで幸福の時間も長くなる。よって，手紙が確実に届くと知った中，待つ時間をもたらし，喜びを生んで増幅させたことにかたつむりである意味がある。

【新美南吉「ごんぎつね」を例に】

日本全国の小学生が読む作品として有名な「ごんぎつね」を取り上げた。昭和６年に新美南吉は草稿を書き上げ，当時の人気雑誌であった「赤い鳥」（1918年創刊～1936年廃刊）に投稿した。ところが，鈴木三重吉が添削してしまった。特に最後のごんが銃で撃たれる場面は，オリジナルにおいて，「権狐は，ぐったりなったまま，うれしくなりました。」が「ごんは，ぐったりと目をつぶったまま，うなずきました。」と書き換えられている。つまり，極めて悲しい結末になっているのだ。

【課題】「ごんぎつね」を読んで，ごんの死を分析してください。必ず文章に即して考えましょう。以下に示した物語の構造図も参考にしてください。教室においては必ず，ごんは殺されて可哀想だという意見とごんは殺されても仕方がないという双方の意見が出ます。第三の意見もあるでしょう。あなたの考えを350字～400字でまとめましょう。正解はありません。本文テキストに依拠した根拠であれば良いのです（図５を参照）。

〔ごんが撃たれて可哀想だという意見〕

●私は，ごんの死は可哀想だという感想をもつ。その理由は二つある。第一に，ごんはただのいたずら好きではなかったということである。ごんは，自分がしたいたずらによって兵十の母親が最期にうなぎを食べられなかったことに気がついて後悔したり，ひとりぼっちになった兵十を自分の姿と重ねて思いやったりすることができる一面もあった。その性格が，兵十のもとに償いの気持ちも込めて食べ物を持っていく行為につながったと思う。第二に，ごんの気持ちや行いが兵十に伝わっていなかったということである。兵十は，ごんを撃ってから火なわじゅうをばたりと取り落とした。これは，今まで自分のもとに食べ物を届けてくれていたのがごん

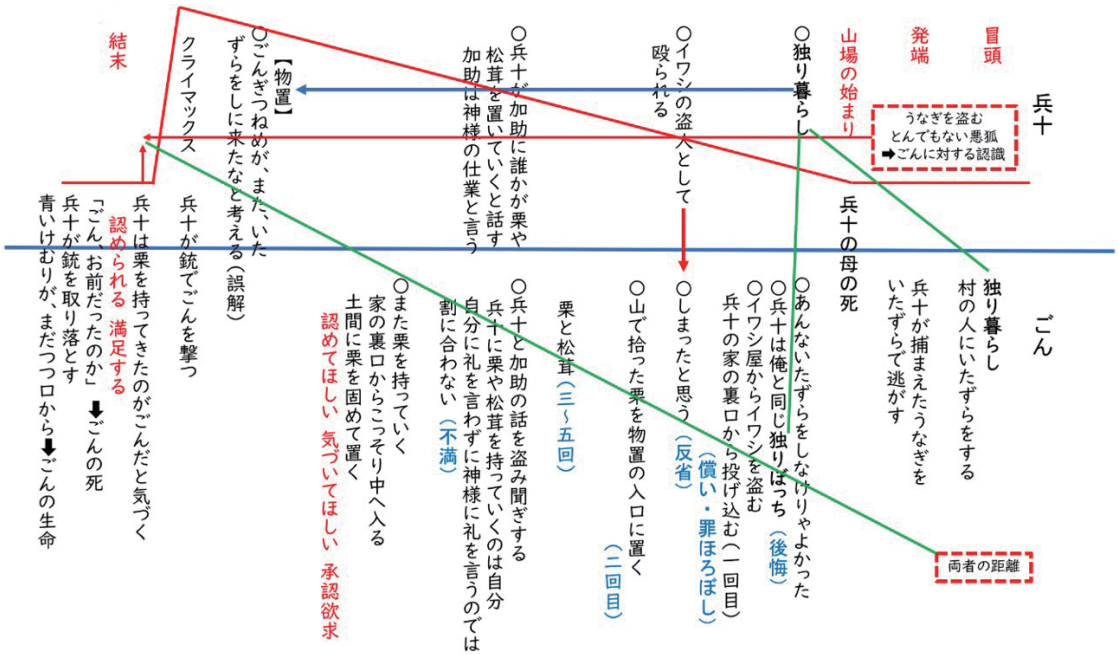

図５　光村図書「国語」４年生の教科書教材で日本全国の小学生が学んでいる。新美南吉の「ごんぎつね」の物語の展開をごんと兵十のそれぞれの視点に分け、時系列で重要なポイントを追いかけた授業の板書例である。本文の図は三森氏の板書を引用したものである。

であると分かり撃ったことを悔やんだからである。兵十が，ごんがただのいたずら好きでないと気がついていたら，過度にごんを警戒し撃つこともなかったと思う。以上より，私はごんの死は不本意なもので可哀想だと感じる。

●私は兵十に火縄銃で撃たれて死んでしまったごんのことを可哀想だと思います。私がごんの死を可哀想だと思う理由は二つあります。第一にごんはひとりぼっちだったから，寂しいという気持ちが強く，誰かに構ってほしいという気持ちから村人たちにいたずらをしていると私は思います。村人たちの様子を陰からよくのぞいている様子からも寂しいという気持ちが読み取れます。だから，ごんのいたずらも仕方のないものとして許されると思います。第二にひとりぼっちが寂しいと知っているごんは兵十がひとりぼっちになってしまったことを知り，兵十に寄り添おうとします。それにもかかわらず，兵十はごんの優しさに気が付かず，ごんのことをただのいたずら狐だと思って撃ってしまいます。兵十はくりや松たけが家に置かれていることに気付いていたにもかかわらず，ごんを見て察することができなかったのが悪いと思います。以上の理由から，ごんの死は可哀想だと思います。

〔ごんは殺されても仕方がないという意見〕

●ごんが火縄銃で撃たれるのは当然だと思います。理由は二つあります。第一に，ごんは取り返しのつかない過ちを犯しているためです。ごんは，兵十がお母さんのために捕ったうなぎを盗んでしまいます。ごんがどれほど反省しても，兵十が死んでしまったお母さんにウナギを食べさせることは絶対に叶いません。ごんが罪を償っていることを知らない兵十は，さぞやごんのことを恨んだことでしょう。第二に，ごんは自身の行いにより兵十からの信頼を失っているためです。先に述べたように，兵十はごんのことを「こないだうなぎをぬすみやがった，あのごんぎつねめ」と認識しています。ごんが罪を償っていることを知らない兵十は，これ以上ごんにいたずらをされたら，たまったものではないと考えるはずです。ごんが撃たれるのは，当然の報いです。

●私は兵十がごんを火縄銃で撃ったことは仕方がないことだと考えます。私がそう考える理由は二つあります。第一に，ごんは以前からいたずらをすることが知られていました。そのため，ごんを家の中で見かけたときにいたずらをしに来たと思われるのは当然のことです。そして第二に，物語の途中でごんは改心しますが，それを兵十が知らないのは無理ないことです。お供え物が家へ届けられるのは神様のおかげだと理解しており，お供え物とごんを結び付けるものはありませんでした。そうしたことから，ごんの心の動きを推し量るすべはな

かったと言えます。現代の法学的価値観に基づいて考えれば，ごんの命を抗弁の機会なく奪ったことは非難に値します。しかしこれはあくまでも現代の価値観であって，物語の中では特に食べ物に関わるいたずらは重大な罪だったとも理解できます。そのため，私は兵十がごんを火縄銃で撃った行動が仕方のないことだったと考えます。

〔第三の意見〕
●私はこの物語において最も可哀想なのは兵十であると考えます。私がそのように考える理由は三つあります。一つ目は母親が亡くなって一人ぼっちになってしまったこと。二つ目はいわしを盗んだ犯人だと思われて，いわし屋に殴られてしまったこと。そして三つ目は，物語の最後に兵十が神様の仕業だと思っていたものの正体を知ってしまったことにあります。ごんは兵十に火縄銃で撃たれて死んでしまいますが，最期には兵十に自分の行動を知ってもらえたことで満足しています。しかし兵十からすれば自分にいつも栗をくれていたごんを自らの手で殺めたことになります。真実を知らないままであればいたずらばかりする，しかも母親の死の原因の一端を担っていた狐を殺したというだけで済んだのです。真実を知ってしまった兵十はこの物語の後，ごんを撃ってしまったことを後悔するでしょう。以上の理由からこの物語において最も可哀想なのは兵十であると考えます。
●私は，ごんの死は，物語の中でなくてはならないものだと考えた。なぜなら，ごんの死があるからこそ，読者は，命の尊さや戻らないものの切なさを感じ取ることができ，「大切なものは失った後にその大きさを知る」という教訓を，この物語から見出すことができるからである。この物語の一番の切ないところは，ごんの死そのものにあるのではなく，ごんと兵十の，すれ違っていたお互いの感謝の気持ちがやっと伝わったにも関わらず，ごんの記憶には残らないということにあると思う。ごんの死を通して，命の重みがここで描かれるからこそ，大切なものを失う喪失感ややるせなさを読者はしみじみと感じることができるのではないだろうか。そして，この物語に深く入り込み，死という瞬間になってやっと自分の本当の想いを伝えることができたごんと，一つの命と恩を無駄にしてしまった兵十の二人に心を寄せることができるのではないかと思う。

5．リテラチャーサークルをめぐって

よく行われる読書会活動として“リテラチャーサークル”がある。これはアメリカで開発された活動で，意見を交換し合いながら進めていく。欧米では大人によるブッククラブが盛んに行われる。これは子どもの時から学校や家庭で意見のやり取りが通常的に行われているからできることである。日本の場合は，単なる感想の述べ合いに過ぎないことが多い。
〔役割分担〕
・コネクター（自分とのつながりを見つけ出す係）
・クエスチョナー（疑問を見つけ質問する係）
・リテラリールミナリー（優れた表現の選ぶ係）
・イラストレーター（思い浮かんだ情景を絵にする・イラスト係）
・ワードウィザード（特別な言葉をみつける係）
・リサーチャー（作者，テーマなどを研究する）
以上を詳しく説明した後に以下の課題を出した。授業でのやり取りができない為，個人作業とした。

※役割が違う者同士が本を読むという同じ課題に協力して向かうところが特色である。異質な集団内で自律的に活動する能力を育むことができる。グループの人数は4人～6人が適当。多過ぎると一人ひとりの発言時間が少なくなってしまう。
〔進め方〕
★この本の面白さはどこかを話し合う。必ず理由を添える。
★読書会で発見したこと，気づいたこと，本の内容に限らないで話し合うす。目標は読書ボードを作成することにある。

★一番印象に残った文章はどれか，話し合う。
★本の魅力を短い言葉で伝えるキャッチコピーを考える。
★イラストによる表現は，本全体の印象を象徴的に表すもの，特定のシーンや登場人物に絞るもの，手書き，ＰＣで作成……何でもありである。

【課題】リテラチャーサークル
選んだ本の題名「　　」作者名（　　）
※選ぶ本は小中高生対象
1. この本の面白さを書きましょう。結論→理由の順で書いてください。【目安200～250字】
2. 一番印象に残った文章を書き抜きましょう。
3. この本の魅力を短い言葉で伝えるキャッチコピーを考えてください。

●「こころ」夏目漱石
1.「こころ」の面白さは，豊かに描かれる人間の心情描写にあります。この話には現在と過去の二つの場面があり，二人の主人公が登場します。それぞれの視点で描かれる二つの物語により，人のこころの光と闇が語られます。現在では，先生のこころに触れるため，主人公は近づこうとします。しかし，一向にこころを開こうとしない先生。そして，遂に終盤で衝撃の過去が語られます。心理描写を味わい，沢山のことが学べる一冊です。
2.「しかし，しかし君，恋は罪悪ですよ。わかっていますか？」
3.今語られる先生の過去　未来へ紡がれる手紙だ。
●「赤毛のアン」ルーシー・モード・モンゴメリ
1.この本の面白いところは主人公アンの物の考え方です。孤児であるアンは心を豊かにする方法を知っています。想像の世界でいろんな楽しいことを考えます。いつも想像をしているアンが，周りの人間関係を築いていく様はとてもユニークです。アンは人との関わりから想像の世界だけでは強く生きていけないことを学んで成長していきます。「アン」シリーズは多く出版されていますが，アンの成長を一番感じられるのがこの「赤毛のアン」です。
2.「あたしの腹心の友となってくれて？」（アンがダイアナに言う台詞）
3.力強い「想像」
●「モモ」ミヒャエル・エンデ
1.この本の面白さは単なる物語ではなく，私たちに問いかけをしてくるところです。灰色の男たちに時間を奪われ，時間の節約と効率化を追い求めて人間としての豊かさを失ってしまった人々，これは今を生きる私たちに通ずるところもあるでしょう。物語ではモモが時間を取り戻してくれますが，私たちはどうでしょうか。メルヘンチックでありながらもどこか哲学的な問いをにおわせてくるところがこの本の魅力の一つといえるでしょう。
2.「人間は自分の時間をどうするかは，自分自身で決めなくてはならない」(マイスター・ホラ)
3.機械や数字で測ることのできない人間らしい時間の使い方
●「しあわせな王子」作：オスカー・ワイルド　文：前川祐一
1.この本は，二つの美しさを知ることができます。一つ目は，世界の様々な景色や建物の美しさです。様々な場所を旅してきたツバメによって語られる世界の様子や有名な建築物についてのことがらは読んでいてワクワクするものです。二つ目は，人を想う心の美しさです。王子とツバメが，自らを犠牲にしてまで貧乏な町の人たちのためにルビーなどを届けてあげたり，体調を崩している子どもがいれば羽で仰いであげたりする姿からは，誰かに親切にするということの重要さを学ぶことができます。
2.「でも，おかしいなあ。こんやはこんなにさむいのに，ぼくは，からだじゅうがぽかぽかして，とてもあたたかいや。」「それは，きみがいいことをしてきたからさ。」
3.世の中にあふれる美しさ

６．絵画の分析

欧米の学校ではよく行われる分析的な授業である。2019年の春に筆者が訪れた英国ウィンブルドンにあるプレップスクールでは地下鉄に乗ってロンドンのナショナルギャラリーへ行き，美術館内で絵画の分析を行っていた。絵画に限ったことではない。音楽も演劇も同様に論理的な分析をする。そうでないと漠然とした解釈に止まって対象を多面的に見ることができないからだ。

【「窓辺の子どもたち」Children at the Window　ボグダノフ＝ベリスキーを例として】（資料１）

【課題】分析の観点として以下の四つを与えた。
　Ｑ１＝季節はいつですか？　※場所はロシアです。
　Ｑ２＝誰がいますか？
　Ｑ３＝子どもたちは何歳くらいですか？
　Ｑ４＝子どもたちは何をしていますか？
　それぞれの問いに学生は以下のような記述を返してきた。

Ｑ１➡春
【理由：植物を手掛かりとして】
　・子どもたちの後の木に葉が生い茂っているから
　・雑草が生い茂っているから
　・白い花が咲いているから
【理由：服装を手掛かりとして】
　・子どもたちが上着やオーバーを着ているから
　・女の子たちが首にスカーフを巻いているから
　・左から２番目の男の子が，タートルネックのセーターとシャツを着ているから
　・右手前の男の子が，オーバーの上のボタンをしめているから
Ｑ２➡6人の子どもたち
【理由】
　・窓の低いところから顔が見えるから(背は高くない。)
　・表情にあどけなさが残っているから（顔の輪郭がやや丸みを帯びている。顔が小さい。）
　・暮らしぶりは金持ちでもなく貧しくもない。身なりがきちんとしているから

資料１　「窓辺の子どもたち」Children at the Window　ボグダノフ＝ベリンスキー

Ｑ３➡11歳～12歳ぐらい
〔理由〕
・顔の輪郭から丸みがとれはじめているから
・着ている服が大人とあまり変わらないから
・男子と女子で一緒に行動しているから
Ｑ４➡子どもたちは，窓越しに何かを見ています。
〔理由〕
・視線は皆，基本的に同じ向きだが，左右に微妙に違っているから
・視線が上下で異なっているから
・真ん中奥の２人は，視線がやや上の方に行っているから
・４人（手前の３人と，右端の女の子）が自分の目と同じ高さに視線を合わせているから
・窓越しの建物の中には，複数の物，または複数の人がいることが判るから

今回の課題としては出さなかったが，次のような質問も考えられる。
Ｑ：場所はどこですか？
Ｑ：子どもたちが見ているのは何ですか？
Ｑ：何のために，子どもたちは窓越しに，建物の中を見ているのですか？
Ｑ：この絵は誰が何をしている絵だと考えますか？

７．物語のテキスト分析

〔新美南吉「うた時計」を例に〕
新美南吉の「うた時計」は彼が最晩年に書いた実によくできた作品である。無駄な表現が一切ないからだ。「廉」という少年の名前，絶妙のタイミングで鳴り出すオルゴール，廉が語る妹の悲劇的なエピソード，廉と周作が歌う“ひィよめ，ひよめ，だんご，やァるに　くウぐウれッ”，遅れて登場する薬屋の主人＝周作の父親，それらを物語の構造に落とし込むと話が立体的に見えてくる。その上で，周作や父親の心情に触れると物物語が視覚的に浮かび上がってくるはずだ。

【課題】作品の中に出てくるうた時計＝オルゴールが物語の中で重要な役割を担っています。では，少年の「廉」という名前は物語の中でどのような意味を持つでしょう。分析してください。目安：350字～400字
●この物語の中で，少年の「廉」という名前は話し相手の男性の変化を表す役割を持っている。前半では，少年とこの男性の人間性は対照的である。「廉」という漢字は，漢和辞典によると，「行いの正しい意に用いる」ものであり，この少年の言動は正に「廉」という言葉の通り，正しいものである。一方，話し相手の男性は不良少年であった過去を持ち，学校を卒業してすぐに家を出ているのである。さらに，改心したと言って薬屋に泊まり，二つの時計を盗んできていたのである。しかし後半では，この男性は少年の話を聞いて心が動いたのか，二つの時計を薬屋に返してくれるよう，少年に頼んでいる。また，少年に対して，清廉潔白で立派な正直な大人になるよう，伝えている。自分の生き方や，ポケットにある時計に思いを巡らせ，清廉潔白という言葉にふさわしくないことに気づいたのだ。「廉」という名前は，このような男性の思いの変化を示している。
●少年の「廉」という名前は，親子の絆を間接的に繋ぎとめる役割を果たしている。少年は，自身が説明している「清廉潔白」通りの佇まいをしており，後ろめたいことがなく，初対面の大人である周作にも物怖じせずに接することができていた。そんな彼の無垢さや素直さが表れた言葉が，再び悪さをしてしまった周作の心にも響き，盗んだものを手放すことにつながった。周作が少年にあてた「潔白，それでなくちゃいかんぞ。そういうりっぱな正直なおとなになれよ。」の言葉は，周作自身に対する言葉でもあったのである。また，少年が薬屋のおじさんと話す場面で，周作は本当は盗む気がなかったのだということと，「人間は清廉潔白でなくちゃいけない」と言われたことを伝えていた。おじさんは，周作が少年と出会ったことで改心したことを悟り，目に涙を浮かべたのである。したがって，少年の名前には，破綻しかけていた親子の関係を取り持つ架け橋の

意味合いがある。

●私は，この物語における少年の名前「廉」が担う役割は次に挙げる二つのことだと考える。一つ目は物語の中で度々出てくる清廉潔白という言葉を強調する役割，二つ目は周作が清廉潔白と同じ漢字の廉との関わりを通して自身も清廉潔白な人間になろうと改心するための伏線のような役割だ。一つ目の役割に関して，この物語で登場する清廉潔白という言葉は少年の名前である「廉」に関連している時が多いからだ。「廉」という名前であったからこそ，廉が周作に清廉潔白の説明ができた。次に二つ目の役割に関して，「廉」という名前の少年がきっかけで周作が清廉潔白という言葉を知り，周作自身も清廉潔白であろうと考える人間になったからだ。「廉」という名前の少年との出会いが周作が改心するまでの伏線となり，清廉潔白という言葉や薬屋のうた時計に関する少年の思い出等を聞く中で，悪さばかりしていた周作が実際に改心して清廉潔白になっている。

８．オリジナルＰＯＰ作り

学校図書館の経営をする際に見落としがちなポイントは展示や装飾の仕方である。それは何も巨費を投じるということではない。手軽に作れるものでいいのである。図書委員やボランティアの手を借りるのも良いだろう。そこで，オリジナルＰＯＰ作りという課題を出した。街の書店の中を歩くと，平積みになっている本には様々なポップがつけられ，買い手の目を引くような設えが施されている。そればかりか天井に展示や広告が施されている場合もある。学校図書館を考える上で決められた大きさの紙に本のセールスポイントを凝縮してみるということは要約の作業にも通じる点がある。デジタルで作業を試みる場合は，パワーポイントのスライド１枚に表現してみることである。学生諸君には，そのような説明を加えた上で，オリジナルポップ作りを課題にした（資料２を参照）。

【課題】書店に行くと，様々なポップが目を引きます。オリジナルポップを作ってみましょう。大きさのイメージは情報カードのサイズですが，Ａ５版程度と考えてください。デジタルで作成しても手描きで作ってくださっても構いません。手描きの場合は写真を送ってください。郵送は受け付けません。絵を得意としない方は差し支えのない範囲でイラスト素材等を用いてください。本の表紙はどのように使っても怒られません。

資料２　オリジナルＰＯＰ作りとして2021年6月に出した課題の中から四点を引用した。

９．コロナ禍だからこそ

大学のキャンパスに足を踏み入れることなく時間を過ごしてきた2020年春に入学した諸君のことを思うと，心が重たくなった。次々に降り注ぐ課題やレポートに心が折れそうになった学生もいるだろう。私の拙い教職経験や趣味の領域から，こぼれ話的な内容を引っ張り出してコラムを書き続けた。内容はとりとめのないものだったが，学生からはことのほか好評だったようである。以下はその表題一覧である。

【Column】 01.私立学校への就職とは　02.映画レビュー　03.国分寺崖線，そして，水害
04.音楽とスポーツ　05.寄り道のすすめ　06.あるインタビューをめぐって
07.築地・横浜36kmウォーク　08.志賀高原スキー合宿　09.新美南吉記念館と産業技術記念館
10.春の小川の源流を訪ねて　11.渋谷川の支流　12.Meet the WORLD　13.教育の周辺
14.二人の恩人（緒方洪庵，木村芥舟）　15.三つの心（絵心・歌心・芝居心）

１０．おわりに

授業はすべて遠隔，そしてオンデマンドで行った。極めて一方的で手応えのない授業になると思いきや，実際は毎週の課題を読むことで学生の息遣いが感じられた。次第に分析的な読みができるようになっていった。そればかりか，読みっ放しにせず，論理的な文章を書く訓練にもなったのである。表題にも掲げたが，読書と記述との融合は今の教育の世界に求められている。さらに企業やスポーツや芸術の世界が求めている人材もそうしたスキルを身につけた者なのである。

注

１）筆者の勤務校していた慶應義塾横浜初等部は2013年の開校以来，「言葉」科と称した言語技術教育の授業を実践してきた。実際に授業の指導計画や授業案を作成したのは，つくば言語技術教育研究所長の三森ゆりか氏である。横浜初等部のスタッフは氏と協働で教材を練り上げてきた。三森氏は2016年より自ら授業実践を始め，多くの教材や研究成果を与え，生徒や教員に多くの示唆を与えた。本文中の図や資料のアイデアは，三森氏の授業で使用された教材と横浜初等部の教員スタッフが理論を取り入れて改良したものである。
パラグラフライティングの手法について三森氏の授業での説明から学んだものを引用した。
２）絵画の分析についての教材選定や想定問答は，慶應義塾横浜初等部の倉田知幸教諭が考案した。
３）本文全体を近藤由紀彦が執筆し、支援を前田稔が担当した。

学校図書館入門，読むことと書くことの融合

― Critical Writing スキルの向上を目指して ―

Introduction to School Library, Fusion of Reading and Writing:

Aiming to Improve Critical Writing Skills

近　藤　由紀彦・前　田　　稔

KONDO Yukihiko＊[1] and MAEDA Minoru＊[2]

生涯教育分野

Abstract

It's a waste to just learn about the school library.The goal of this paper is twofold.To improve your logical thinking ability by reading analytically, and to acquire the ability to write logical sentences.

Keywords: logical thinking, logical writing

Department of Lifelong Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要　旨

学校図書館について学ぶだけでは勿体無い。本論の目的は二つある。第一は分析的に読むことで論理的思考能力を向上させること，第二は論理的文章を書く能力を身に付けることである。

キーワード：論理的思考，論理的記述

＊1　Tokyo Gakugei University
＊2　Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan)